



限界ふたなりさとりんを
完全屈服させる方法

■これまでのあらすじ■
地霊殿の主・古明地さとりは
敵対勢力に捕まってしまっ
さとりを傀儡とするため
心身共に堕とす変態調教が始まり
十目が過ぎた

「おらっ！しっかり立て！」
男の逞しい腕を支えられながら歩くさどりの足取りはおぼつかない
調教が始まってから今日で十目
さどりの股間には今にも爆発しそうなほど張り詰めた
巨根がそそり物っている
その原因は外からでも見てわかる程の尿道パールの
射精封じ、そして勃起状態を維持し続けるための
ちんぼラバーと薬物投与によるものだ

「や…めなさい…んひっ♡…この程度の調教で私を堕とそうなんて
無駄なことよ…んオオツ♡」

「クッククク…そんなナリでまだ軽口が叩けるか。さすがは地霊殿の主様だ」
リーダー格の男が下卑た笑いを浮かべる
「よし。敵ながらあっぱれなその態度に免じて射精の禁を解いてやろう」



「まっは娯楽回一シヨんたっぷりの
オナホのヨキだー」
「イキッ…んガアアアアアッ」
「ちんぽっ…ちんぽは爆発するっうおオオオオッ」

「手コキも疲れるし電マぶち込んでけ」
「イキすぎてこわれたまんこがさみしそうだぞ
パイプでも突っ込んでけ」
「ゆるふわアナルガン掘りサイコーだぜ！」

「オヘツ♥チンポオオオオッチンポのなかッ！があアッ♥アッ♥
尿道パールごりゆごりゆ震えるううううおおおッ?!
おまんこツケツマンコツガン掘り♥♥
イグッイグウウウウッ♥♥ンガアアアアアアッ♥♥」

「まだまだ先は長いんだおれたちも
楽しませてもらうぜ」
「ソブオツススっ♡」

「このデカパイオナホもらうぜ」
「たまんねえ乳肉しやがって」

「ぎゅんん」

「ぎゅんん」

「おちゅん」

「おちゅん」

「おちゅん」

「すしゅん」

「のどオナホたまんねえ！精液で胃袋パンパンにしてやるからな！」
「おい後で使うんだからこわすんじゃねーぞ」
「ぐおっ縮まるッ」
「バカ、締めんな」

「すしゅん」

「すしゅん」

「すしゅん」

「すしゅん」

「たぽん」

「たぽん」

「すっぴーちのまんこすっぞと搾撃しつばなしじゃねえか！
こんなのすっぴーちまうぜ！……くっそ！まだ治まんねえ！
まんこすっすになるまでやってやる！」

おどっ♡ぶえッ……

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

「おおっ？すげえバキューム！
こいつ金玉まで飲み込む気か？」

ぬ……
ぬ……

た……
た……

「こいつの胸、乳まんこどころか
ちんぼ汁吸引器だな
母乳じゃなくて精液溜めてんじゃねえのか！」

「おい、今アクメカウントいくつよ百回ぐらいいったかっ」
「いやまだ三十。」
「目分もイッてねえや……」
「てめーらおせーぞ！もっとイかせてさしあげろ！」

んゴオオオオオオオ

ちんぽ♥♥おおツ♥♥ちんぽじぬう♥♥

ちんぽっちんぽが♥アアアアアアツツ♥♥

オオ
オオ
オオ
オオ

溜めに溜めた限界射精だー！
金玉空っぽになるまで出しやがれ！

シュシュ

イギイイイイツグググツツ~~~~♥♥

「へへへ、いったぜさとりちゃん
聞てえちやいないだろうがご褒美の時間だ」



「ただし！」

いっほっ

出すのは一めの

ケツまんここにだっ！

ふっふっ

んっ

いっほっ 執成

セッパカ

ンゴおアオオオオオオオオオオオオ

ほっ

おっ

おっ

おっ

おっ

…限界アクメをキメて失神したか
よくやった諸君！
このまま触手牢に閉じ込めて
完全屈服させるのだ！

終

おっ

おっ